

【フロンティアスクール用中間報告書様式】

(都道府県 大阪府)

学校の概要 (平成15年4月現在 実施計画書から転載可)

藤井寺市立 藤井寺小学校									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	養護学級	計	教員数
学級数	4	4	4	4	3	4	3	26	36
児童数	142	134	139	144	118	128	12	817	

実践研究の概要

1. 研究主題 (テーマ)

協同指導体制・少人数指導・地域との連携を柱に、「確かな学力」と「ゆたかな心」をはぐくむために

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科 (選択した理由を付すこと)

協同指導体制

すべての学年で、学級・学年の枠にとらわれることなく全教職員で全児童の成長を見守り育てていこうという体制である。

一部教科担任制

5・6年生各教科 (発達段階から、いろいろな教師がかかわることの利点大きい。また、中学校への移行もスムーズであるため)

少人数指導

4・5・6年生算数 (子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため)

1・2・3年生算数 (協同指導体制のもと、4～6年の副担を活用し、各クラス週1～2時間TTを行い、基礎学力の定着をはかるため)

4・5・6年生国語 (個に応じた、読書指導・書写指導をするため)

(2) 年次ごとの計画

平成
14
年
度

テーマ
学力向上に向けて、少人数指導でのより効果的な指導方法の研究
研究の見通し (仮説)
少人数指導や習熟度別指導等、個に応じた指導の工夫改善を図ることにより、児童の学力は向上する。
研究内容・方法
・算数科学力診断テストで児童の学力実態を把握し、きめ細やかな個に応じた指導のあり方についての研究を深めた。特に、九九・くり上がりくり下がりの計算についてのつまずきは、その後の学習に及ぼす影響が大きいため、何らかの策を打ち立てる必要がある。
・少人数学習において、単元や内容によって、最も適した分割方法 (TT、均等割習熟度別、課題別、コース別、3学級5分割、2学級3分割など) を採り入れ、それぞれの児童の個に応じた教材や指導法を開発しながら進める。

平成
15
年度

テーマ
協同指導体制をより充実し学力を向上させるという観点で、より効果的な少人数指導とは

仮説
協同指導体制で興味関心を高めつつ、少人数指導等の個に応じた指導で基礎基本の定着を図ることにより、児童の学力は向上する。

研究内容・方法

- ・ 児童の実態から、指導内容・指導形態・指導方法の見直しと工夫を日常的に実践研究する。
- ・ 算数科で少人数指導ならではの授業のあり方を引き続き研究し、少人数授業を公開する中で研究を深める。
- ・ 他教科での少人数指導や生活指導も含め、学年協同指導体制を充実させる。
- ・ 学年での教科担任制と少人数指導を有機的に活用し、児童の学力向上に向けて指導主事を招いての校内授業研究等、様々な試みをしていく。

平成
16
年度

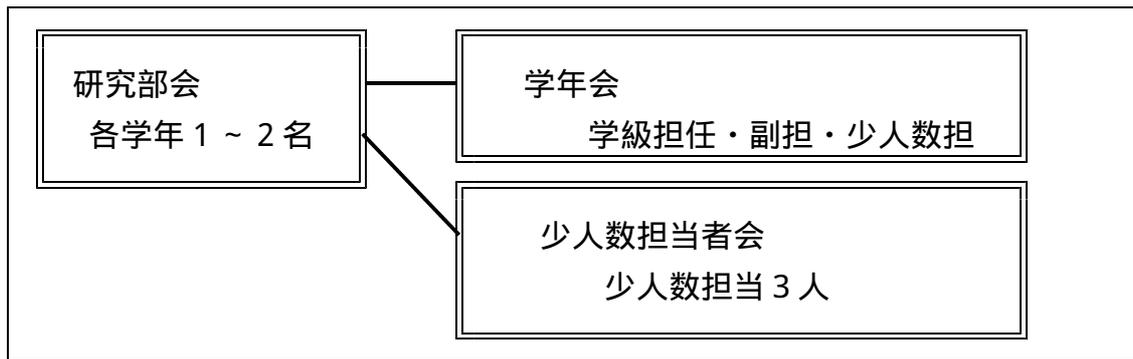
テーマ
3年間の協同指導体制・少人数指導・地域との連携を柱にした、「確かな学力」と「ゆたかな心」の育成をめざして

仮説
家庭学習も含めた自主学習の充実と、きめ細やかな指導により、「確かな学力」と「ゆたかな心」が育成される。

研究内容・方法

- ・ 学力向上に向けて実践してきた、協同指導体制・少人数指導・地域との連携等すべての取り組みを行いつつ、自主学習教材の開発もめざす。
- ・ 公開授業研究会を行う。その際、3年間の取り組みをまとめ、指導案や報告案の検討の中で検証する。また、研究の成果を地域へ発信するとともに、研究会を通して外部からの指導助言を受け、今後の研究に活かす。

(3) 研究推進体制



- ・授業で分からず自信がない児童は、すぐに個別対応でマンツーマン指導をし、精神的な回復を早める。
- ・学習したい時にいつでも学習ルームに来て、既習内容をパソコンで楽しく繰り返し学習できる様な環境を設定している。(雨の日など特に利用者が多く、発展的な学習に進む児童も多くなる。)
- ・文章問題では、その場面理解を促すために、導入時に具体物を使ってロールプレイをしたり、ビデオを活用したりする。
- ・定義や公式など、板書用カード(色刷りでラミネートしたもの)を作り、毎時間同じものを使い、学習後は教室や廊下に掲示し常時目にふれる環境にする。
- ・学年の廊下や階段の踊り場に、今学習している単元の問題を掲示し、立ち止まって解き、すぐ答えがわかるような仕組みにし、児童の日常の中にゲーム感覚で算数を取り入れる。
- ・毎週金曜日、放課後の学校行事は極力入れず、「学力向上タイム」と銘打って、全校で学力向上に取り組んでいる。そこでは、特に習得に時間のかかる児童の補充を中心に、発展的な学習プリントを準備しての取り組みも行っている。
- ・家庭学習は、その日に学習した内容を習熟できる中味にし、それ以外に自主的に学習できる自主学習プリントも準備した。

学習意欲の向上がみられた。

- ・「算数が好きになった」「自信がついた」「授業であたる回数が増えてうれしい」「発言するのが恥ずかしくない」という声が多くなってきた。
- ・コース別の学習集団の中で安心して学習に取り組む児童が多い。その中で、ケアレスミスも少なくなり、学習に集中できる態度が育ってきた。
- ・知識や理解が深まり、わかる喜びを実感し、児童はさらなる学習意欲を自ら生み出していけるようになってきた。
- ・家庭学習の自主学習プリントをする児童が増え、「こんな問題も作ってほしい。」と注文が出る様になった。

学力が向上した。

- ・単元末のテスト(教科書の内容程度)では、学年全体として、基礎的・基本的な内容は達成している。個別指導が必要な児童についても、着実な伸びを見せている。

例 * 各単元末テストの平均点 (4年生)

数と計算	大きな数	わり算 1	およその数	わり算 2	小数
	88.1	94.3	89.3	83.7	97.6
図形	円と球	三角形			
	95.6	94.2			
数量関係	折れ線グラフ	式と計算	整数の仕方		
	94.2	84.0	94.4		

* ある4年生児童(3年時の平均点が30点程度)の各単元末テストの点数

数と計算	大きな数	わり算 1	およその数	わり算 2	小数
	55	78	39	47	97
図形	円と球	三角形			
	85	75			
数量関係	折れ線グラフ	式と計算	整数の仕方		
	69	30	60		

本児は、4年当初、学習に対する自信がなく、全くといっていいほど意欲的ではなかった。当初実施した『3年の復習テスト』は30点であった。

4年になって算数科での少人数学習を開始し、少人数担当者による放課後の個別学習も始めた。4年当初は、放課後の学習にも消極的で、「なんでこんなことしなあかんねん」「帰りたい」「こんなんしても、意味ないやん」という言葉が聞かれた。

母親が、家での勉強のさせ方を知りたいと放課後の学習の様子を見に来られた事もあり、家庭でも継続して家庭学習にかかわってくれた。

『わり算』の単元に入り、少しずつできるようになり分かる喜びを感じていった。テストにも真剣に取り組み、結果も納得のできるものであった。

努力すればできるんだという自信をつけ、その後は、放課後も自主的にプリントを取りに来るようになり、「先生、教えて下さい。」と教師に対する言葉づかいも変わってきている。

『数量関係』など、問題を読み解く単元では言語面でのつまずきがあり、点数としては低くなっている。しかし、どの教科の学習に対しても少しずつ意欲的に取り組むようになってきており、生活態度も前向きになってきた。

2. 今後の課題

少人数授業・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導の実施を推進し、基礎・基本の確実な定着や自ら学び自ら考える力の育成を図ることは、学校全体で共通理解を図りながら取り組みを進めている。しかし、理解の進んでいる児童への発展的な学習で力をより伸ばすという取り組みについては、今後研究を深めていく必要がある。

教材研究や教材教具を工夫し、すべての子が、興味を持って学習し学力が向上するような「分かる算数の授業」を目指して、今後も実践研究を進めていく必要がある。

来年度の発表に向けて組織的に取り組み、多くの方々からの指導を仰ぐことで、一人ひとりの教員の力量を高めたい。

学力把握のための学校の取り組みについて

- ・ 1年から6年まで、算数「数と計算」領域の定着実態を把握し指導に活かしていくために、少人数指導担当教員が中心となり、各学年の代表からなる研究部において算数科学力診断テストを作成し、各学年学期ごとに実施した。そして、結果の集計と考察を行い、指導方法や指導体制の見直しなど、日常の指導に生かしている。
- ・ 例えば、「わり算」では、既習内容の復習テストをし、その結果をみてコース選択をする。またその結果により、児童のつまずきを教師も児童もが具体的に知り、対策を練る。
- ・ 単元学習の最後の評価テストをする前に、既習内容の基本的な確認テストを実施し、児童自身が自分のつまずきを知る。また、教師は児童のつまずきに早く気づき、個別のきめ細かな指導に役立てる。

フロンティアスクールとしての成果の普及について

- ・ 少人数指導の成果については、全校の研修会で報告し、全教師が共通理解している。
- ・ 平成15年度は、南河内地区学力向上推進協議会において、4・5・6年生で算数科少人数習熟度別学習などの公開授業研究会を実施し、多くの方々に参加していただき、研究を深めることができた。

- ・平成16年度には、すべての分野に及ぶ公開授業研究会を開催し、研修の成果を地域へ発信するとともに研究協議を行い、今後の研究に生かす。
- ・各小・中学校の少人数指導担当者からなる藤井寺市学力向上推進委員会で、習熟度別指導の効果的な指導法など実践事例を紹介しながら、研究協議を行っている。
- ・年度末に、一年間の取り組みをリーフレットにまとめ、保護者や市内の学校に配布する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	<input checked="" type="checkbox"/> 14年度からの継続校
【学校規模】	6学級以下 13～18学級 <input checked="" type="checkbox"/> 25学級以上	7～12学級 19～24学級
【指導体制】	<input checked="" type="checkbox"/> 少人数指導 <input checked="" type="checkbox"/> 一部教科担任制	<input checked="" type="checkbox"/> T.Tによる指導 その他
【研究教科】	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 ・ 社会 ・ 生活 ・ 音楽 ・ 体育 ・ その他	<input checked="" type="checkbox"/> 算数 ・ 理科 図画工作 ・ 家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】	<input checked="" type="checkbox"/>	無